



Hāf a A d a i

令和5年10月27日
グアム日本人学校
学校だより
11月号
校長 井手瑞樹

感動のスクールパフォーマンス

9月15日日曜、グアム日本人学校スクールパフォーマンスが開催されました。5月の台風でかなりの痛



手を負ったのは本校だけではありませんが、そこから何とか立ち直り、休校により減った授業数の確保に努めながら、少ない時間の中でスクールパフォーマンスの準備・練習に取り組んで参りました。直前の台風が、弱り目にたた目とばかりに、さらに試練を与えましたが、何とか、保護者、来賓の皆様に見ていただくことができました。心よりお礼申し上げます。

子どもたちの純粋無垢な姿には、感動を覚えざるを得ません。私たちの前に立って、一生懸命に動いたり、声を発したりするだけで心が動かされます。私たちは、感動を心の大きな糧にしているといえるのかもしれませんが。一方で、子どもたち自身は、やり遂げた喜びや安心感や、何よりも会場の皆さんの興奮を感じて、大きな感動を味わっています。そしてそれこそが、彼らがこの先への一歩を、意欲と勇気を持って踏み出すことにつながっていくのだと思います。

競泳の池江璃花子選手をご存じでしょうか。中学・高校時にバタフライや自由形で日本新記録を出し、東京オリンピック2020でもメダルが期待されていた選手です。ところが開催の1年半ほど前、突然白血病を発症し、オリンピックへの出場を断念せざるを得なくなりました。私は大変びっくりすると同時に、彼女が天国から地獄へ落ちる姿を、これ以上ないほどのクリアな映像として思い浮かべてしまいました。何とむごいことか、そう感じた人は多かったことでしょう。



ところが彼女は、白血病と闘うことを宣言したのです。そして、必ずここへもどってくると言い残し、その場を去って行きました。私は、正直なところ、彼女が再びそこへ戻ってくるとは想像もしていませんでした。しかし、見事に復活をとげたことはご存じのとおりです。

2021年、日本選手権女子100mバタフライ決勝で、1位でゴールしたことがわかると、彼女は水の中で肩をふるわせて泣いていました。その涙に、見ていた私たちも胸を熱くしました。様々な感情が彼女とともに私たちにもわき上がってきたのを覚えています。一言でいうとそれはまさに「感動」でした。彼女は自分自身に「感動」していたのかもしれませんが。そしてそれを見た私たちも「感動」をもらったのです。その後の彼女の活躍ぶりもご存じのとおりです。現時点では、以前ほどの状態にはまだ戻っていませんが、少しずつ近づいているのは確かです。その芯の強さには脱帽です。私も間違いなく勇気もらっています。

「感動」の連鎖と言っているのかもしれませんが。

随分前に、テレビのCMで、「感動は人生を大きくします」というフレーズが流れていたと記憶しています。



すばらしい言葉だと思います。グアム日本人学校の子どもたちにもぜひこういう体験を積み重ねてもらいたいと心から思います。そのために、素直な心で、また謙虚な姿勢で、さらに人への尊敬と感謝の気持ちをもって日々の学びを進め、生活を送ってほしい。それが「大きな人生」へとつながる第一歩だと思います。スクールパフォーマンスでの体験が一つの種となって、将来大きな花が開くことを願って

います。